

和田幼稚園の運営方針

1. 安全・安定・安心な園づくり
子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように子どもたちの情緒の安定を図り、日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する。
2. 人間形成の基礎づくり
挨拶や礼儀作法など基本的な生活習慣が身につくように援助し、自発的、主体的に行動できるように助長する（人格形成の基礎づくり）を推進する。
3. 幼児教育の更なる充実（豊かな環境の中で、多様な経験をし、成長を促す）
遊びや活動、生活の中で、人・もの・コトに子どもたちが自ら関わり、その中で発見したり、気付いたり、工夫したり思考錯誤し、友だちと協力したりしながら、子どもたちの園生活が充実していくように関わって

和田幼稚園の教育目標

1. 「あかるく、たくましく、考える創造性豊かな子」を育てることを目標に、一人一人の関わりを大切にする
2. 自然を営む環境の中で、多様な経験や体験を通して、心身とも成長、発達を促す
3. 規則正しい生活習慣を身につけ、人間形成の基礎を培うことを目標とする

本年度の重点目標	「あかるく たくましく かんがえる」豊かな環境の中で一人一人の幼児を大切にされた質の高い教育、保護者とともに子どもたちの成長を分かち合える開かれた幼稚園を目指す ●保育の質向上（教育・保育の探求）●組織運営・人材育成 ●保育環境の見直し
経営の重点	●組織運営「つながり」 職員が働きがい、やりがい、働きやすさのある職場づくり（保育者同士のつながり・保育者と保護者のつながり）
教育の重点	保育の質向上「子どもたちの心情・意欲を高める・子どもの心を動かす」 ●子ども理解、環境構成、援助の理解を深める ●多様な体験 ●遊びの広がりや深まり ●人権教育 ●共に育つ（地域との関わり、保護者と育つ） ●環境教育：自然と関わる（自然を感じる）

評価項目（達成度A:80～100%、B:60～80%、C:40～60%、D:0～40%）

項目	内容（取り組み）	評価	理由
1. 保育について	（具体的な目標や取組） ●本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく。 ●各学年のリーダーを中心に、指導計画や記録の作成に際して、常に本園の保育の原点（あかるく、たくましく、かんがえる）を確認し合う。 ●これからの社会で必要な育ちを確認 ●教育保育要領の理解を深めていく ●子どもの育ちを見取り、説明していく	B	2019年度から進めてきた「子どもの主体性」を大切にする保育も徐々に広がりつつあることを実感している。これからの社会に必要な「生きる力」：「人との関わり」「自己肯定感」「自尊と自律」「探求心」「命」を大切にする保育について全体でさらに共有していく。
2. 教育目標学校評価	（具体的な目標や取組） ●自己評価：教育保育要領に基づいた自己評価 PDCA評価項目・方法の見直し ●学校評価：評価項目の見直し ●学校関係者評価 ●保護者アンケート	B	教育保育要領に基づいた自己評価、保護者アンケートを実施し、次年度の事業計画作成に反映させていく。園のグランドデザインを作成し、学校評価項目を昨年度より絞り、さらに選ばれる園、保育の質を高めていく。
3. 組織の活性化	（具体的な目標や取組） ●将来ビジョンの共有：全職員での研修を行い、園の理念の確認を実施する ●組織力の向上：園務分掌による役割分担（一人一人が当事者意識をもつ） ●副主任（ミドルリーダー）の参画意識と企画力の向上 ●園内研修の充実（保育を語る、子ども理解） ●キャリアパスによる人材育成の仕組み化 ●子育て支援センターの充実	B	園内研修において、「心理的安全性」「コミュニケーションスキル」を取り入れ、保育者間の同僚性を高めていけるように研修を行った。次年度はさらに「子どもの姿」「保育について」対話を重ねていける組織づくりに注力していきたい。保育補助を含めた保育者間での園内研修等。
4. 地域・家庭との連携	（具体的な目標や取組） ●保育の見える化（HP、クラスだより、動画配信、クラス見学会、…） ●子育て支援開設（コロナのため中止）・子育て支援の研修会を開催 ●小学校との連携（幼小接続研究会） ●食育の推進（野菜栽培の促進） ●地域との連携（地域の田んぼを利用（田植え体験）、園芸店見学会など） ●保育者一日体験（保育体験、試食会）	A	1学期は保育参観、個人面談、2学期は運動会、生活発表会、保育者一日体験、3学期は保育参加、個人面談。クラスだよりやHPを活用し、子どもの興味・関心、育っている姿を保護者と共有していった。小学校接続研修を行うなど、保育について学ぶ機会を作ってきた。

<p>5. 安全管理 防災・防犯</p>	<p>(具体的な目標や取組) ●リスクへの備え・事故対応 ●施設・設備の定期的な安全確認及び管理 ●園内・園外の安全確認 ヒヤリハット事例・事故報告書の確認と共有 ●避難訓練(不審者・消防訓練・地震) 引き渡し訓練 ●事故対応(救命救急研修・食物アレルギー研修)</p>	<p>B</p>	<p>定期的な安全確認及び管理を今年度も続けている。避難訓練においては、月に1回の避難訓練、保護者と園児引渡し訓練を実施。課題を抽出し、改善している。事故においても、重大事故はなく、事故報告書・ヒヤリハット事例を作成し、全職員で共有している。</p>
<p>6. 園環境</p>	<p>(具体的な目標や取組) ●保育環境の見直し ●自尊と自律を育む環境 ●一人一人の育ちを見つめ、自ら育とうとする子どもたちを支える環境 ●「やってみたい」「してみたい」と子どもたちが感じる環境 ●主体的で対話的、深い学びの促進</p>	<p>B</p>	<p>安心感と居心地感を基盤にし、環境を整えてきた。子どもたちは安心・安定した環境の中、自分で選び自分で決める、遊びに夢中になり遊び込む姿が見られるようになった。遊びのひろがりや深まり(探求する)の点では、さらに子どもを観察し、環境構成していく。</p>
<p>7. 働き方</p>	<p>(具体的な目標や取組) ●職員のメンタルケア -主任、副主任を配置し、同僚で相談できる関係をつくる(メンター制) -1on1ミーティング -心理的安全性の向上 ●業務改善 -ノンコンタクト時間の確保 -業務改善委員会の設置 -やりがい・働きがいのある職場環境 ●コミュニケーションの向上(コミュニケーション研修)</p>	<p>B</p>	<p>4月から義務化される「ハラスメント」への研修、コミュニケーション研修を実施しているが、職員間の人間関係を構築する難しさを感じた。ノンコンタクトタイム、保育補助の充実等による業務改善により働き方を見直し。働き方の多様性を尊重しながら、働きがい、やりがいのある職場づくりを進めていく。</p>
<p>8. 研修・研究</p>	<p>(具体的な目標や取組) ●園内研修の充実 ・研修時間の確保 ●外部研修の充実 ●保育力の向上 -人材育成(学び続ける人材の育成) -人権教育(パワーハラスメント、コミュニケーション) ●計画的・日常的な保育指導の充実 -週日案の充実(遊びの拡がり、深まり)</p>	<p>B</p>	<p>土曜日を園内研修に活用することによって、外部研修や園内研修で職員間で対話する機会を得ることができた。次年度は、さらに「主体性」「子ども理解」等について、職員間で対話をし、「子どもにとって」の最善の利益を考え、保育していく。月案・週案の記録の見直しにより、遊びのひろがりや子どもの声を聞き保育を子どもたちと作っていくこと、保育の見える化を進めていく。</p>